

匹見地域協議会（第6回）会議次第

日時 平成31年2月25日（月）14:00～

場所 匹見タウンホール 集会ホール

出席者

（委員）藤谷 一剣・齋藤 惟人・大谷 文男・西川 友史・大久保純子
溝田 洋子・村上 巴・河本 亮・齋藤 光・齋藤 幸士
（益田市）藤岡匹見総合支所長・藤井地域振興課長・田中地域振興課参事
齋藤分室長・藤本分室長・井上分室長・佐々木分室長

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

（1）匹見峡温泉等に係る対応状況について

4. その他

次回開催 平成31年 月 日（ ） 時 分～

主催者名	匹見総合支所地域振興課
会議名	平成 30 年度 第 6 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 31 年 3 月 25 日（月） 14 時 00 分～
開催場所	益田市匹見タウンホール 集会ホール
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 匹見地域協議会委員（7 名） ・ 山本市長 ・ 匹見総合支所：藤岡支所長 地域振興課：藤井課長、田中参事 齋藤補佐、井上補佐、藤本補佐、佐々木補佐 大谷

【会長あいさつ】

匹見においては、1 月末をもって匹見峡温泉が閉鎖ということで、町民一同悲しみと共に暗く、明るい見通しのない状況が続いていて、町にも活気がなくなっているような状況となっている。この地域が明るい未来に向かって進むように願っています。

【市長あいさつ】

大変匹見の住民の皆様にはご心配とご迷惑をおかけしている。匹見峡温泉のことや匹見に関連する予算の次年度の方針についてご説明させていただく。

（施政方針について）

- 平成 31 年度は大きなテーマとして、連携の充実と発信とした。SDGs、持続可能な開発目的の概念をすべての事業推進において意識することとしている。この SDGs を自治体として取り組むことによって大きく 3 つのメリットがあると考えている。
 - ① 国際的で客観的な目標とすることで広い視野の中で身近な政策課題が明確になる。
 - ② 連携を進める上で相手方、関係者との間でも共通の言語である SDGs を使用することで目標の共有化、そして連携の促進が期待できる
 - ③ 課題解決に向けた自律的好循環、地方創生の一層の促進につながる。
 これらを意識し関係する人や機関と連携を取って進めていきます。
- 匹見地域に関連して、ワサビ、匹見峡温泉について触れている
このわさびについては生産者、生産組合、JA こういったところと連携を取り合い、地域の方々と一緒に足並みをそろえて振興を図っていきたいと考えている。
- 匹見峡温泉の再開は引き続き住民の方々のご支援ご協力が無くてはならないところであり、地域協議会の皆様方にも是非ご協力をお願い申し上げます。

【協議事項】

(1) 匹見峡温泉等について <資料1 地域振興課参事より説明>

- 匹見峡レストパークについて、
3月までは冬季休業の期間であるため、4月1日から直営での運営に向け準備並びに受付を開始している。営業期間は4月から11月末までとするが、食堂については休業とする。
- 中央公園について
3月から直営で臨時的に開園をしている。今後はレストパークと併せ委託したいと考えている。
- 匹見峡温泉について
再オープンに向け修繕を行う予定としている。指定管理者の公募についてはそれぞれの部署と協議を進めている。

(意見・質疑)

- 住民は温泉が休業している理由が分かっていない。その原因を支所は分析していると思うので説明して欲しい。
 - ▷ 株式会社ひきみの経営難が理由である。温泉部門、食堂部門、宿泊部門があり、収益を見込んでいた食堂、宿泊部門の利用者の減少が経営全体に大きく影響があったものだと考えられる。
- 4月1日に再開するような話もあると聞いたがどうか。
 - ▷ まだ公募していないので相手方も決まっていない。現場を見に来た方はいらっしゃるが4月1日に新たな業者での再開とはならない。
- 経営が苦しいといった話は前から聞いていた。利用客が減り経営が行き詰ったから休業すると言われてもなかなか納得できないところがある。もう少し違う理由があるのではないか。
 - ▷ 利用客が減った一番の理由は、地域の人口減少にあると考えている。同じような温泉施設と比べても決して見劣りするような施設ではないため、交流人口の拡大により新たな顧客を引き込む施策が有効であると考え。この地域の豊かな自然を情報発信していけばよいマッチングができるのではないかと考えている。地域の皆さんの思いと行政の思いがマッチした、新しいパートナーを見つけて匹見峡温泉を再開したいと思う。
- 匹見は温泉とワサビに基金まで入れて守ってきた。温泉と木の駅もリンクしていると思うが木の駅で就業されている方の対応などは考えているか。
 - ▷ 温泉の薪ボイラーがあり、木の駅から薪を供給している。現在は供給を止めているため苦しい状態になっている。チップとして材を出していくなど、新たな出荷先を見つけながら、これまでどおり運営したいと考えている
- 温泉の経営の悪化については昨年7月の地域協議会で知った。これまではそのような話は無かったが、1月になったら急遽休業という話になっている。株式会社ひきみもこのような状況になる前に益田市に対し報告をしていたのではないかとと思うが、悪化した時点から閉鎖に至るまでに協議がなされたのか。
 - ▷ 年に一度の株主総会の場で経営状況の説明を受けていた。7月以降は経営の状況や改善に向けて随時やり取りは行っていた。
- 温泉が早期に再開された場合には指定管理料についてはどうするのか。
 - ▷ 指定管理料については算定方法を検討中であり、これまでの実績を見ながら算定していく。
- 指定管理の会社が決まればすぐ予算化されるということによいか。
 - ▷ そのように考えている。
- レストパーク、中央公園についても指定管理されるのか。
 - ▷ 温泉、レストパーク、中央公園の三つを一体として経営して頂くことが理想だと考えているが、今年はレストパーク、中央公園については直営での管理を行うこととして予算化している。地域の中からやりたいという申し出があれば指定管理への移行も可能だと考えて

いる。

【報告事項】

(1) 平成30年度 まちづくりコーディネーター事業報告 <資料1 石橋コーディネーターより説明>

○平成30年度の取り組みについて報告する。

① 情報発信

ブログ、ホームページや視察対応、講演、取材対応等を通じ、匹見町の魅力や取組を情報発信した。

各事業の集客や、加工品販売、特別な取り組みについては、報道機関に取材依頼を行い、情報発信を行った。新聞や、テレビへの情報提供や報道は、経費負担が無く、ピーアール効果も高いことから、今後も積極的に活用していく。

② 定住対策

年2回定住情報誌おかえりを発行し、地域内外へ定住施策や田舎体験事業、ボランティア制度、農家民泊のPR、UIターン者への匹見での生活等の情報発信をしている。今後も田舎体験イベントの開催等を通じ交流事業の拡大、UIターンのきっかけ作りにつなげていきたい。

③ 集落対策

地区振興センターや地域からの支援要請を受け、各種イベントや事業が円滑に実施されるようサポートを行っている。また、活性化プロジェクト会議で支所・振興センター・商工会・市観光交流課などと情報共有した取り組みを行っている。

④ 加工グループの育成

今年度は益田市広域市町村圏事務組合の要請を受け、匹見森の器が手掛ける料理ベラの新規開拓営業を行いました。匹見地域には魅力ある農産物や特産品があるが、PRや営業不足から常時販売できない商品も少なくない。今後、生産者と販売先の間を取り持ちPRに努めていきたい。

⑤ 観光対策

ひきみ田舎体験推進協議会を母体に、交流人口の拡大に努めた。今年度の交流人口の総数は244人である。

外国人客ツアーの受け入れの継続している。田舎体験事業は匹見の人情や暮らしが大きな魅力や強みとなっており、新たなツアー客の受け入れ要請が入ってくるようになっている。外国人客受け入れの際は行程に小中学校との交流を取り入れ子どもたちのキャリア教育にもつなげた。

⑥ ボランティア活動支援

匹見ボランティア制度は、町外在住者337名がボランティア会員登録をしている。平成30年度は地元13団体から要請があり、草刈、熊電気牧柵の下刈り等を行った。地元の受け入れ団体からは、作業負担の軽減や、交流の場となる等の声が聴かれる。

島根県立大学生が匹見中学校を訪れ、学習や部活動の支援を行っており、将来の進路や生き方を考えるキャリア教育支援の一助となっている。

《質疑・意見》

- 温泉が危機的な状況を迎えた時、うまくコーディネーターさんを使い、情報発信等で集客に向け取り組みばよかったと感じている。支所はコーディネーターさんをどのように考えているのか。

▷ 委託内容に情報発信も含まれている。この件に関してうまく出来ていなかった。

- せっかく良い人材がいて、このような報告が聞くことができても、平時ならよいが、今回の温泉の問題があった時などは特化して集客につながる取り組みをすべきではないか。

▷ コーディネーターさんの活用については今後考えていきたい。

(1) その他【報告】

① 匹見地域道路整備期成同盟会について。<井上分室長>

○同盟会で要望活動を行っているが、運営資金が不足しているため、今後は、一戸あたり15円の負担をお願いしたい。歳入としては、市からの補助金も含め18,000円程度になる見込みで

ある。主な歳出の見込みは会員に支払う日当相当額と運転手の日当になる。

●いつから負担することになるのか。

▷ 再来年からとなる。

②新澄川線について<井上分室長>

○新澄川線の南方の場所については工事が完了し、4月1日より通行可能となる。

③マイクロバスの利用について<斎藤分室長>

○正式な手続きに基づき利用されていないものや使用目的、運行の行程が適正でないものがあった。行政、公民館活動、教育と三つの区分の中での利用とし、地域の利用については公民館を通じて申請をしていただきたい。

●住民への周知は。

▷ 放送等を活用して周知する。